

第3学年1組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 ダダダッたんボール A表現(1) 造形遊び

2. 題材設定の理由

○ 本学級の児童は、図画工作科の学習を楽しみにしており、どの題材にも意欲的に取り組み楽しく活動している。図画工作科学習についての意識調査では、31人中28人が「造形遊びが好き」と答えており、「いろいろな材料で何でもつくれる」「何度でもつくり直せる」「広い場所で活動できる」と興味・関心が高い。1学期に実践した「長—い紙、つくって」では、少人数教室を活動場所にして、細長く切った新聞紙を頭や体の上のせてみたり、壁などに様々な形に切った紙を張り付けたり、机やいすにつなげたりして楽しく活動した。しかし、中には「アイデアがうかばない」ことから、自分の思いを表したいイメージと結び付けることができない児童も数名いた。

はさみ、カッター、段ボールカッターで色々な紙、クラフトテープ、段ボール紙を切ったり穴をあけたりして、用具や材料に親しむ活動を図画工作の学習時間だけではなく、造形タイムの時間にも行って来た。この様な活動を低学年の時から継続的に行っているため、今までに学習した用具を発想や構想したことを実現するために、用具の特徴を生かして安全に正しく使う力が身に付いてきている。そこで本題材では、身近にある段ボールを材料として、体育館という広い場所で体全体を使ってのびのびと表現する快さや、一人一人が思い付いたことを出し合い、発想を刺激し合いながら、造形活動を行う楽しさを十分に味わわせたい。

○ 本題材では、段ボール箱や身近な場所から、体全体で感じたり考えたりする造形的な活動を通して、工夫して活動すること、また、友達と一緒に材料や場所に働きかけ、楽しみながら活動し自分らしい造形的な表現の追求と発見をすることがねらいである。いろいろな形や大きさの段ボール箱を積み重ねたり並べたりする活動の中で、これまでよりも材料としての段ボールや体育館という場所から感じたことをもとにイメージを広げ、時には友達と関わり合いながら、いろいろな表し方のよさや面白さを感じたり見付けたりすることを楽しませたい。また、活動の様子を写真に残し、段ボールは、たたくでリサイクル倉庫に戻し再利用できるようにする。

〈小中連携の視点から〉 本題材は、第4学年の「いい場所見つけて囲んでみよう」へと続く、場所や空間を変化させることを楽しみながら活動する造形遊びである。場のもつ様々な要素と、材料、そして他者との関わりによって生み出す造形表現は、中学校美術での主に表現の活動を支える力になる。身の回りの世界に進んで働きかけ、思考錯誤しながら自分の思いを具体化する能力は、幅広い領域において発揮される基礎的な力であると考えられる。

3. 研究の着眼点

【視点1】 題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

「であう」段階では、段ボール箱を自分たちで集めてくる中で、「こんなことができそうだ」「あんなことをしてみたいな」という思いを膨らませ、体育館という広い場所と自分たちが集めたたくさん段ボール箱を使うことで、活動したいという意欲をより高める。

まず、児童体育館に連れて行き、「今日は何をするんだろう」という期待を持たせる。

次に、布で隠しておいた段ボール箱(マトリョーシカ風に箱の中に箱を入れておく)を提示してわくわく感を高める。そして、段ボール箱とこの場所でどんなことができるか問いかける。児童

が思い付いた活動には、たくさんの段ボール箱が必要なことに気付くようにして、段ボール箱を集めてくる活動に移るようにする。体育館のすぐ近くに、リサイクル倉庫と下足センターのリサイクルコーナーがあるため、児童は容易に段ボール箱を短時間で集めることができる。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

「であう」段階では、児童が「段ボール箱とこの場所でどんなことができるか。」「そのために必要な用具は何か。」を話し合うことで活動のイメージや見通しをもつようにする。

「みつける・あらかわす」段階では、グループでお互いに助け合ったりアイデアを交流し合ったりしながら、いろいろと試すことによって発想が広がるようにする。

「あじわう」段階では、それまでの活動の様子を紹介したり、話し合ったりする時間を設定することで、友達の発想を自分の表現に意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫することができるようにする。

【視点3】つくりだすことに熱中するための教師の支援を工夫する視点から

造形タイムや9月の「いつもの場所で…」の学習の様子を、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力の視点で分析し、一人一人の発揮している資質・能力を捉える。それをもとに個に応じた具体的な手立てを考える。発想や構想する場面でのつまずきが予想される児童には、友達の作品を見に行ったり、一緒に段ボールを組み立てたりする。創造的な技能を発揮する場面でのつまずきが予想される児童には、一緒に段ボールカッターを使ったり、クラフトテープを貼ったりすることで材料を積み重ねたり、組み合わせたり、つないだりする方法を具体的に指導する。

4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 段ボール箱や場所から感じることを基に積極的に活動しようとする。
発想や構想の能力	○ 材料や場所から得たイメージを基に、自分がしてみたいことを思い付いたり、活動しながらつくり方を考えたりする。
創造的な技能	○ 活動する場所のよさやこれまでの経験を生かしながら、段ボール箱を積み重ねたり、組み合わせたりするなど工夫して活動する。
鑑賞の能力	○ 材料や場所のよさを感じ取ったり、自分や友達の活動を見合い、それについて話し合ったりしながら、表し方のよさや面白さを感じ取る。

5. 指導計画と評価計画（総時数2時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎言語活動	評価規準および評価方法
であう みつけ	1. 自分達で集めた段ボール箱を使って表現活動をする。 0,5 (1) 段ボール箱とこの場所でどんなことができるかアイデアを出し合う。 (2) 段ボール箱を集める。	◎ 「 <u>段ボール箱とこの場所でどんなことができるか。</u> 」そのため「 <u>必要な用具は何か。</u> 」と話し合いの観点を示すようにする。	【関】 段ボール箱に興味をもち、その大きさや量感を感じながら、切ったり接合したり組み合わせたりするなど積極的に活動をしている。(発言分析・行動観察)

る・あ らわす	2、自分の思いに合わせて、段ボールで様々な活動をする。 1/2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラフトテープや段ボールカッターなどの用具を準備し、必要に応じて活用できるようにする。 ○ 段ボールカッターは安全に気をつけて使うように掲示物で確認する。 ○ 場所の特徴を生かして高く積み重ねたり、長く並べたり、友達の活動とつないで協力してつくったりして発展的に活動が展開されるように助言していく。 ○ 活動で面白さや工夫が感じられる点を見つけて称賛し、活動が広がるようにする。 	<p>【発】 材料や場所から得た感じを基に、接合や組み合わせなど自分がしてみたいことを思いついたり、活動したりしながらつくり方を考えている。 (発言分析・行動分析)</p> <p>【創】 今までの経験や材料や場所の特徴を生かし、思いを工夫して表そうとしている。 (行動分析・表現過程分析)</p>
あ じ わ う	3. 自分や友達の活動を見合い、よさやおもしろさを認め合う。 0,5	<p><u>◎ 自分の考えを発表できる場を設定し、互いのよさを認め合えるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 十分に遊ばせた後は、自分たちの活動の足あとを写真に残し、使った段ボールはリサイクル倉庫にきれいに片付ける。 	<p>【鑑】 材料や場所のよさや、自分や友達の活動のよさ、面白さなどを感じ取り、認め合っている。 (発言分析・鑑賞カード)</p>

6. 本時の学習 平成27年10月2日(金)第5校時 体育館

(1) 主眼



いろいろな形や大きさの段ボール箱を、重ねたり並べたり組み合わせたりする造形的な活動を通して、思い付いたことを自由に表す楽しさを感じ取り、材料や場所のよさを生かした造形活動ができるようにする。

(2) 準備

- ①□教師 クラフトテープ・段ボールカッター
- ② 児童 段ボール箱

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法)
であ う	<p>1. 本時のめあてを知る。</p> <p>(1) 布の中の中から出てきた段ボール箱を見て、学習について意欲をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて だんボール箱をつんで、つなげて、ならべて、組んで、どんなことができるかやってみよう。</p> </div> <p>(2) どんな活動ができそうか考える。</p>	<p>○ 布で隠しておいた段ボール箱(マトリョーシカ風に箱の中に箱を入れておく))を提示する。</p> <p>○ リサイクル倉庫やリサイクルコーナーに段ボール箱を取りに行き5分間で集合場所に戻れるように声かけをする。</p>

	<p>積み重ねてみたい。</p> <p>どんどんつなげてみたいな。</p> <p>穴をあけてみたいな。</p> <p>◎ 「集めてきた段ボール箱でどんなことができるか」そのために「必要な用具は何か」と、思い付きやイメージを出し合うことで、イメージが浮かばない児童もイメージをもてるようにする。</p> <p>○ 段ボールカッターは、使い方の注意点を掲示し、安全に気をつけて使うことを確認する。</p> <p>【関】 段ボール箱に興味を持ち、その大きさや量感を感じながら積極的に活動をしようとしている。 (発言分析・行動観察)</p>
<p>みつける・あらわす</p> <p>2. 段ボールや場所を生かすことができるよう協力しながらつくっていく。</p> <p>使いたい段ボール箱は、決まったんだけど、やりたいことが思いつかないな。</p> <p>これとこれ、合わせてみたら面白そう。</p> <p>もっと高くしたら、タワーになるよ。</p> <p>クラフトテープで段ボール箱をつなげよう。</p>	<p>【発】 段ボール箱の感触や体育館の特徴から、自分がしてみたいことを思い付いたり活動しながらつくり方を考えたりすることができる。(行動観察分析・発言分析)</p> <p>◆ 一人一人のつまずきへの支援</p> <p>◇<u>発想・構想面の能力を働かせる場面でのつまずき</u> </p> <ul style="list-style-type: none"> 全く思い付かない児童には、一緒に友達作品を見に行き、段ボール箱の大きさや重ね方を選択させながら、したいことを探っていく。 使いたい段ボール箱はあるが、活動にうつれていない児童には、一緒に段ボール箱を組み立てる。 <p>◇<u>創造的・技能面の能力を働かせる場面でのつまずき</u> </p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボールカッターを安全に使えていない児童には、段ボールカッターの安全な使い方を確認し、一緒に活動する。 段ボールカッターで思うように切れない児童には、どんな風に切りたいか尋ねやってみせて、切る活動を見守る。 <p>○ それぞれの場所で、児童が思い付いたことを自由に試みることができるように活動を見守り、活動の面白さや工夫が感じられる点(形や大きさ)を見つけて称賛する。</p> <p>【創】 活動する場所のよさや今までの経験を生かしながら、材料を積み重ねたり、組み合わせたり、つないだりするなど工夫している。 (行動観察・作品分析)</p>
<p>あじわう</p> <p>3. 互いのよさを発表し合ったり、鑑賞したりする。</p> <p>みんなで力を合わせると、こんなに面白いものが、できるんだね。</p>	<p>【鑑】 自分や友達の活動を見合い、それについて話し合いながら、表し方のよさや面白さを感じ取ることができる。 (発言分析・行動観察)</p> <p>◎ <u>自分達が工夫したところを説明したり、話を聞いたりすることで、次時の活動への見通しをもったり早く続きがしたいという意欲をもったりすることができるようにする。</u></p>